



プレスリリース

(株)フライングモール

代表取締役社長 笹原康正

〒431-1115 浜松市西区和地町 5199-1

電話：053-486-6030 FAX:053-486-6033

URL:<http://www.flyingmole.co.jp>

フライングモール、PPM(電力加算技術)事業に進出

(株)フライングモールは、平成12年(2000年)に静岡県浜松市に設立された音響メーカー(従業員25名)です。はがきサイズの一号機・DAD-M1により平成15年度の浜松モノづくり大賞グランプリを受賞。以来、ラインアップを充実、独自技術による音楽性の高いデジタルアンプとして内外の高い評価を獲得して参りました。製品の対象市場も、一般家庭用のオーディオアンプに止まらず、設備音響市場へと拡がりを見せております。2005年の愛知万博パビリオンへのマルチチャンネルアンプの納入、そして設立7周年という節目の年2007年に開発されたDC駆動の500Wアンプ(DCA-M524)がある大手テーマパークに採用されました。

そして明けて2008年秋11月、これまで蓄積してきた特許20件(申請中含む)を総合的に活用し、電力制御分野における新規事業(PPM事業)展開を発表する運びとなりました。(PPM: Power Processing Module)

(1) 市場背景と開発の狙い～

地球温暖化対策としてエネルギー源の低炭素化が進んでおり、太陽光や風力などの自然エネルギー発電、燃料電池等のコージェネ製品が市場に導入されて参りました。しかし、現状の課題として

- ① 大出力化には多額の開発費がかかる。
- ② 自然エネルギー発電(太陽光、風力)では初期投資金額が高額。
- ③ 電力加算の方法が限定されており、異エネルギー、異出力の合体加算が出来ない。
- ④ 災害時など緊急に電源を用意出来ない。

このような課題を解決するため、フライングモールはデジタルアンプの開発で培った業界トップクラスの電力制御技術及びスイッチング電源技術を活かした画期的な【PPM 電流合成加算技術】に取り組み、このたび自社開発に成功いたしました。

(2) PPM 技術の特長～

- ① 小さい電力を無限に(理論的) 合成・加算し、容易に大電力を得られる。
- ② 異なる電力値を合成・加算出来る。
- ③ 異種発電体電力の合成・加算が出来る。
- ④ 高効率化により小型・軽量化が可能。持ち運びも容易。

(3) PPM 技術の応用とシチュエーション

- ① 災害時の初期ライフラインの確保：
官公庁、地方自治体の災害支援・復旧活動への備えとして
- ② 災害時の緊急医療施設で：
官公庁、地方自治体の災害支援・復旧活動への備えとして
- ③ 災害時のモバイルによる電源供給
コンサート火災、タンカー事故など、災害区域への救護活動のための電源確保
- ④ 災害時のモバイルパワーステーション：
警察、消防、自衛隊などの災害支援、復旧活動への備えとして
- ⑤ 緊急時の電力供給システム：
官公庁、地方自治体、会社、学校、病院などの非常用電源として
- ⑥ オーディオ用電源：
- ⑦ ソーラーパネルと一体化：
- ⑧ 電気回収装置：
使用済み電池より残り電力を回収、無駄を廃する
- ⑨ 屋外ルジャ-：
キャンプや釣りはもちろん、屋外で家庭用電気製品が使用可能
- ⑩ 屋外イベント/コンサート：
町内のお祭り、屋外イベント、コンサートなど屋外で活躍
- ⑪ 家庭用蓄電システム：
- ⑫ 事業用蓄電システム：

(詳細：別紙ご参考)